

大問題! チャレンジテスト



① 入試が

まったく不公平に

中学3年生では…

内申の学校平均「4」の中学校では、「1」はつけられません

「1」を1人つけると、「5」を3人つけないと平均「4」になりません

「5」「4」ばかりの中学と「1」～「3」ばかりの中学が

内申の学校平均「2」の中学校では、「5」はつけられません。

「5」を1人つけると、「1」を3人つけないと平均「2」になりません

〈えっ!? 本当〉

- ① 6月のテストで、その後3月までの1年間の、各学校の内申平均が決定されます。
(6月以降に、いくら頑張っても反映されません)
- ② 5教科のテスト結果で、テスト教科外の「音・美・体・技家」の内申平均も決定されます。(体育や音楽などが優れていても反映されません)

＝こんな内申点では希望校にいけない

内申書の比重はとて大きい

高校入試は、学力検査+内申書の900点
(450点) (450点)
満点できまります。

内申書の評定が1ランク下がると、当日の入試で、10点下がるのと同じ!

合 否 判 定 の し く み

学力検査:調査書(内申書)が5:5の高校では

※各高校が、学力検査と内申書の比率を決めます
(7:3, 6:4, 5:5, 4:6, 3:7 の5タイプがあります)

●入試当日の学力検査……450点満点

(国・社・数・理・英 各教科90点×5=450点)

●各学校からの調査書……450点満点

(国・社・数・理・英・音・美・体・技家
各教科50点×9=450点)

↳ 5段階評定の内申点×10点

合計900点満点で合否判定されます

② 学校でいくら頑張っても…

- 中学1・2年生では、チャレンジテストで、
1人ひとりの内申点が決まります-

府内の中学校は大混乱しています。

学校が責任をもってつけた成績が、チャレンジテストの結果によって変えさせられる事例が、府内各地で1万件をこえています。

「英語の評定が1学期に「4」、2学期に「4」であった生徒の内申書評定が「2」に落とされた」など、たった1回のテストで1年間の評定がひっくり返されています。

ある市では、内申書変更に対する府教委への協議の申し出が700件をこえました。が、まったくの門前ばらいにされました。

各学校で生徒の成績が、次々と……(例)

*府教委作成、H27年度「評定の範囲」より

中1 英語の場合

テストで50点以下をとると「3」、
26点以下で「2」に下げられます。
(学校の成績評定が「4」以上でも)

中2 国語の場合

テストで83点以上とると「5」、
71点以上で「4」に上がります。
(学校の成績評定が「3」以下でも)

内申書の成績を学校で決定できない?

〈子ども・保護者に説明ができない〉

各学校が責任をもってつけた1年間の成績が、たった1回のテストによって、むりやりに変更させられ、日常の授業やとりくみで、いくら頑張っている生徒であっても正当に評価することができません。「なぜ、こんな評定になったのか?」子ども・保護者にきちんと説明できないような評定は、内申書の成績にはできません。

内申書が意味のないものに

学校における、生徒の平素のとりくみが反映されないのであれば内申書の意味がなくなります。

「内申書は何のために?」 文部科学省HP Q&Aより

調査書(いわゆる内申書)は、高等学校等の入学者選抜のための資料として作成されるものであり、生徒の平素の学習状況等を評価し、学力検査で把握できない学力や学力以外の生徒の個性を多面的にとらえたり、生徒の優れている点や長所を積極的に評価しこれを活用していくという趣旨のものです。